

## 2013年3月期 連結決算ハイライト

### ■当期純利益は増益

◇売上高 10,192 億円 1.3%増収

◇営業利益 183 億円 14.8%減益

◇経常利益 167 億円 5.9%減益

◇当期純利益 96 億円 56.5%増益

### ■財務体質は大幅に改善

損益の状況						
(単位:億円)	2012/3期 通期実績	2013/3期 通期実績	前期比		2014/3期 通期	
			増減額	増減率	見通し	前期比 増減率
売上高	10,064	10,192	129	1.3%	10,500	3.0%
売上総利益	809	800	△ 9	-1.1%	-	-
販売費・一般管理費	595	618	23	3.8%	-	-
営業利益	214	183	△ 32	-14.8%	190	4.0%
受取配当金	8	8	0	-	-	-
利息収支	△ 36	△ 30	6	-	-	-
持分法損益	3	2	△ 1	-	-	-
為替差損益	△ 6	9	15	-	-	-
その他	△ 5	△ 5	0	-	-	-
営業外収支	△ 37	△ 16	21	-	-	-
経常利益	178	167	△ 10	-5.9%	170	1.8%
特別利益	3	33	30	-	-	-
特別損失	△ 45	△ 32	13	-	-	-
税金等調整前当期純利益	135	168	33	24.0%	-	-
法人税等及び少数株主利益	△ 74	△ 72	2	-	-	-
当期純利益	61	96	35	56.5%	60	-37.3%

【売上高】  
食品・食糧、鉄鋼、機械・プラントセグメントの減収を、電子、環境・素材セグメントの増収でカバーし、微増。

【営業利益】  
事業拡大による先行投資としての販売費及び一般管理費の増加等もあり、減益。

【経常利益】  
営業外収支は、為替差損益および利息収支の改善等により悪化したものの、営業利益の減少により減益。

【当期純利益】  
特別損失では投資有価証券売却益などを計上したことにより増益。

### 資産・負債及び純資産の状況

(単位:億円)	2012/3末	2013/3末	2012/3末比	
			増減	増減率
総資産	3,998	3,992	△ 6	-0.1%
グロス有利子負債	1,608	1,469	△ 140	-8.7%
ネット有利子負債	900	864	△ 36	-4.0%
株主資本	698	795	97	13.9%
その他の包括利益累計額	△ 308	△ 250	58	-
少数株主持分	170	214	44	26.0%
純資産合計	560	759	199	35.6%
自己資本(注1)	390	545	155	39.8%
自己資本比率(注2)	9.8%	13.7%	3.9pt改善	-
ネットDER(注3)	2.3倍	1.6倍	0.7pt改善	-

#### 【総資産】

現金及び預金の減少等により6億円減少。

#### 【有利子負債】

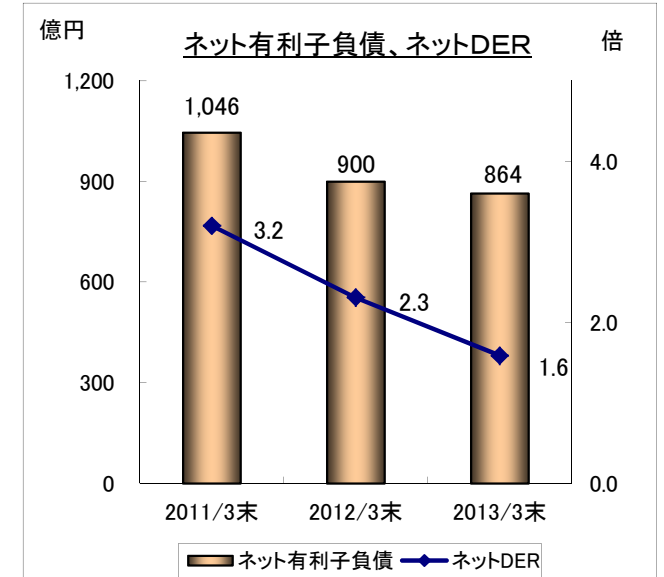
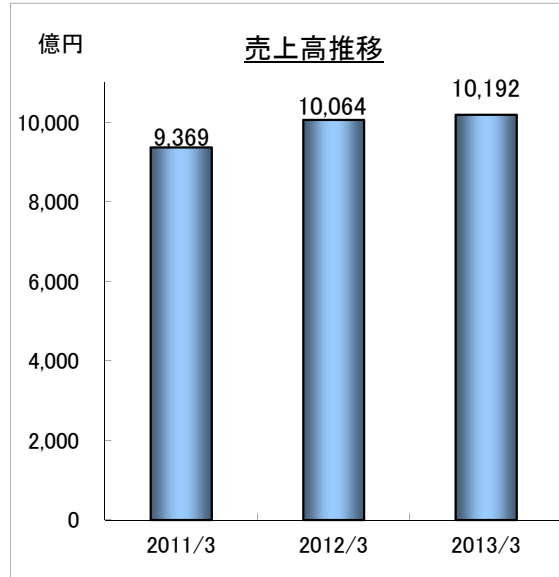
借入金の返済により、グロス有利子負債は140億円減少、ネット有利子負債も36億円減少。

#### 【純資産】

当期純利益による利益剰余金の積み上げ等により199億円増加。純資産から少数株主持分を除いた自己資本は155億円増加。

その結果、自己資本比率は13.7%、ネットDERは1.6倍に改善。

(注1)自己資本=純資産-少数株主持分 (注2)自己資本比率=自己資本/総資産 (注3)ネットDER=ネット有利子負債/自己資本



セグメント情報						
(単位:億円)	売上高(外部売上高)			営業利益		
	2012/3期 通期実績	2013/3期 通期実績	前期比 増減	2012/3期 通期実績	2013/3期 通期実績	前期比 増減
電子	2,531	2,737	205	90	99	9
食品・食糧	2,921	2,879	△ 42	52	32	△ 20
鉄鋼	991	913	△ 78	36	26	△ 10
機械・プラント	704	554	△ 150	14	4	△ 10
環境・素材	2,737	2,935	199	20	19	△ 0
報告セグメント合計	9,885	10,018	134	212	180	△ 32
その他(含む調整額)	179	174	△ 5	2	2	1
総合計	10,064	10,192	129	214	183	△ 32

【電子】:増収増益  
モバイル端末やクラウドサービスの拡販等によりICT・モバイルソリューション事業は好調に推移。米国の景気回復もあり、車載向け電子機器事業も堅調に推移。一方、半導体部品・製造装置関連はスマートフォン需要以外は全般的に低迷。

【食品・食糧】:減収減益  
食品事業は急激な円安の進行により採算が悪化。畜産事業は畜肉の国内生産増加や輸入牛肉の月齢緩和に伴う市況の混乱等により低調に推移。食糧事業は米穀物市況をはじめ相場が高騰したものの、販売価格への転嫁が進まず苦戦。

【鉄鋼】:減収減益  
北米向け鋼管取引が堅調に推移する一方、アジア向け鋼板および鉄鉱石の出荷が低調に推移。

【機械・プラント】:減収減益  
工作機械・産業機械関連取引は、取引先の設備投資・更新需要を取込み順調に推移。輸送機関連およびプラント関連取引は、アジア向け輸出が低調に推移。

【環境・素材】:増収利益横ばい  
エネルギー事業は引き続き電力会社向け重油販売が好調に推移。化学品事業は医薬品原料・健康食品の輸入取引が堅調に推移する一方、車載用電池原料の輸出取引が低調に推移。

\* 本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、当社が発表日現在入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としたものであり、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる可能性があることにご留意ください。  
\* 表示の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。